

令和3年度 京都府立八幡支援学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・年度末評価）

| 学校経営方針（中期経営目標） | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点（短期経営目標） |
|---|---|--|
| <p>◆教育目標「つながり・チャレンジする子どもたち・学校」を学校経営の中で具現化・具体化し、発信する学校を目指す。</p> <p>◆共生社会の形成に貢献する「特色ある特別支援教育」を推進し、これからの特別支援教育において積極的な役割を果たす学校を目指す。</p> <p>◆全ての児童生徒が、社会の中でより良い生活を実現する力を獲得するために、「わかる」「できる」力を伸ばす教育を実践する学校を目指す。</p> | <p><学校経営></p> <p>コロナ禍の中、当初の計画を変更しなければならないことが多かったものの、適宜状況を判断しながら学校運営を行うことができた。</p> <p>研修会等に関しては、計画的に行い、人権研修や教育相談においては、外部講師を招き、学校現場を含めた人権意識の大切さや児童生徒の内面について学ぶ機会を持つことができた。</p> <p>学校防災に関わる取り組みは計画的に行うことができたが、福祉避難所としての対応については、行政との連携も含め、相談を継続していく必要がある。</p> <p>スマートスクールにより、環境面では整い始めていることを考えると、ICT機器をどのように活用していくかなど、具体的な構想が今後必要になる。</p> <p><教育活動></p> <p>交流及び共同学習は、計画通りには行うことができなかったが、「新しい生活様式」を元に、形態や様式を変えて行うことができた。</p> <p>「新学習指導要領」移行期間であるが、プロジェクト会議を通して趣旨を再確認することができた。ただ、評価のあり方など、全学年実施に向けてさらなる研修が必要である。</p> <p>進路に関わって、保護者との連携や情報提供は心がけたが、コロナ禍の影響は大きく、計画通りには行かなかった。</p> | <p>3つの安心を目指す学校作りを行う。</p> <p>*児童・生徒が安心して学ぶことができる学校</p> <p>*保護者・地域が安心して託すことができる学校</p> <p>*教職員が安心して働くことができる学校</p> <p>○学校経営</p> <p>1 安心・安全な学校の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的な危機管理意識の徹底と計画的な訓練の推進。 ・法令に基づいた医療的ケアの実施と徹底した感染症拡大の防止。 <p>2 コンプライアンス意識の向上と徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる場面や教育活動を通じた人権意識・人権教育の推進。 ・学校への信頼を高めるためのチーム力の向上。 <p>3 働きやすい環境作りの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府「働き方実行計画」に基づいた業務改善の推進。 ・自分を大切にする気持ちと他者の気持ちを大切にする職場環境の形成。 <p>○教育活動</p> <p>1 新学習指導要領の趣旨を踏まえた日常的な授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の多様性を意識した授業の推進。 ・GIGA スクールを活用した授業の推進。 <p>2 専門性の向上及び外部評価者を活用した授業改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自校の課題に焦点をあてた研修会の実施。 ・児童・生徒の変化に気がつく、チーム力の向上。 <p>3 保護者・地域社会との連携の推進及びタイムリーな学校情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の思いに寄り添う学級・学部・学校作り。 ・つながりを意識した地域社会における実践の展開。 |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価 | | 成果と課題 |
|--|---|---|----|---|--|
| 組織・運営 | 教育目標の具現化・具体化及び組織的な学校経営の推進 | 機能的な各種会議の運営、積極的提案、早期計画による学校運営の推進とニーズに応じた短時間研修場面の設定 | B | B | コロナ禍の中、計画の変更を余儀なくされる状況が続いたが、適宜判断、提案、相談し運営することができた。少人数での短時間研修会を各部署主催で実施できた。 |
| | 安心・安全を重視した取り組みの推進 | 具体的な場面を想定した危機対応訓練の実施 | C | B | 医療的ケアを中心とする危機対応訓練やヒヤリハット事象への迅速な対応ができた。児童生徒の丁寧な実態把握とその共有、危機的対応や教訓化に課題が残った。 |
| | | 校内ヒヤリハット事象の迅速な報告、共有と教訓化(医療的ケアに限らない) | B | | |
| | 地域社会に開かれた学校経営の推進 | 学校運営協議会の円滑な運営及び学校運営等への評価の活用 | B | B | 学校運営協議会の意見を反映した教育アンケートを実施できた(感染症対応のため年2回実施(うち1回紙面))。ホームページでの発信は全学部が月6回以上発信できず次年度改善すべき課題となった。 |
| ホームページ等の活用による計画的かつタイムリーな教育内容の発信(各学部6回以上/月) | | C | | | |
| 「地域支援センターやわた」の機能を生かした地域における特別支援教育の推進 | 校内巡回相談員の積極的活用による組織的な支援の実施及び学校としての支援力の向上 | B | B | 校内巡回相談員による支援が実施できた。相談ケースから学ぶ機会や相談員のさらなる育成により学校としての支援力向上への取組が今後さらに必要である。 | |
| 教育課程・学習指導 | プロジェクト会議による全校研究の牽引 | 内容のまとまりごとの評価規準の作成と観点別学習状況の評価による授業改善研究の推進 | B | B | プロジェクトが主体となり作成をすすめている。授業研究を軸に継続した研究推進が必要である。 |
| | GIGAスクール構想に基づいたICT機器の利活用による個別最適な学びの保証と協働的な学びの充実 | 個別的・協働的両側面からのICT機器利活用の推進 | B | A | 一人一実践報告やアンケートをもとに実践事例集を作成できた。外部講師による全校研修会により、理論及び実技の両輪で計画的に学ぶことができた。 |
| | | 一人一実践の報告、共有(先行実践とボトムアップの両輪で) | A | | |
| | 新たな交流及び共同学習の創造 | After コロナを見据えコロナ禍においてもつながりを感じられる交流及び共同学習(居住地校交流含む)の推進 | A | A | 担当者を中心に感染症対応を踏まえた上で、ねらいに応じた取組方法を工夫し実施することができた。 |
| 希望進路の実現に向けた進路指導の充実 | 卒業後に向けた各学部、学年における進路学習の実施と目標、指導内容の明確化 | B | B | 高3生の希望進路の実現に向けた指導をすすめることができた。保護者への積極的な発信、全校的な研修や情報発信による計画的な進路指導を進める必要がある。 | |
| | 研修会の実施、情報発信等による保護者や全校教職員への理解促進の機会を各学部において設定 | C | | | |

| | |
|---------------|---|
| 学校運営協議会による評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全を重視した取組は、評価の改善に向けた具体的な取組をすすめることが必要である。 ・八幡支援学校の重点である交流及び共同学習の取組が、コロナ禍においても工夫し進めることができ良かった。 |
| 次年度に向けた改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の計画的な運営により、様々な分野からの意見を集約し学校運営に反映する。 ・ホームページや各種たより、研修会の実施等により取組のねらいを発信し、教育内容とその目指すところを共有する。 ・プロジェクト会議が全校研究を牽引し、新学習指導要領への理解を一層深め、GIGAスクール構想によるICT機器利活用による学びを充実する。 |